

図書館総合展2022 (2022/11/15)

日本目録規則2018年版の 新NACSIS-CAT/ILLへの適用

システムワークフロー検討部会 メタデータ流通の高度化検討班
目録チーム 木下 直

本日のお話

NII学術情報基盤オープンフォーラム2022 (2022/6/2)

[コンテンツトラック2 - NII OPEN FORUM 2022](#)

以降のNCR2018の動きについて

NCR2018の概要については、上記フォーラムの資料や
NDLのwebサイトで公開されている

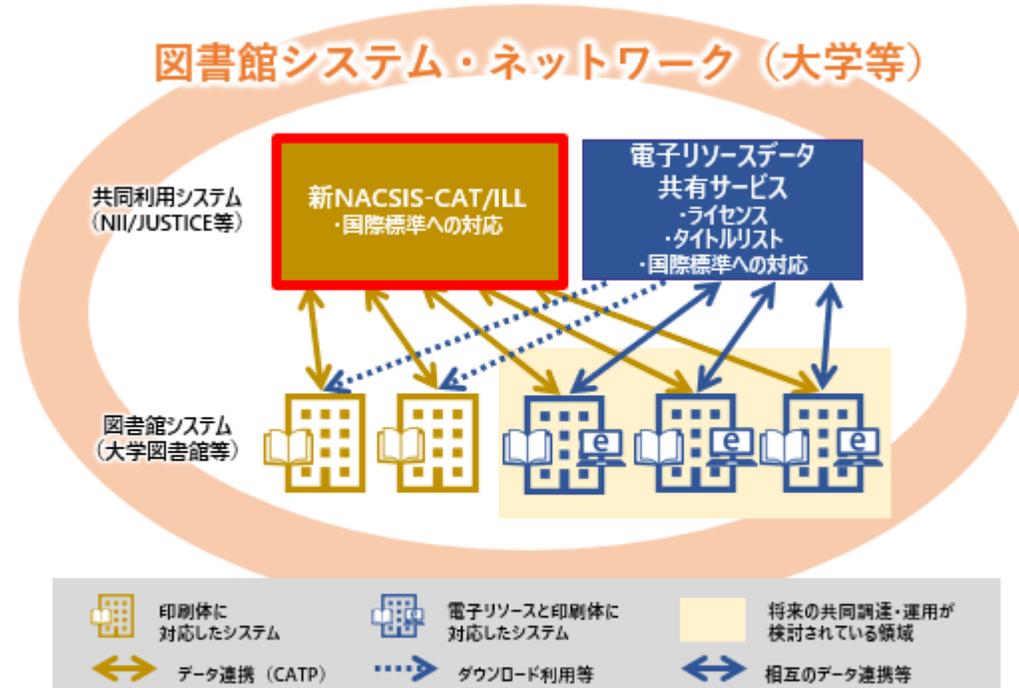
「日本目録規則2018年版のポイント」

[日本目録規則2018年版のポイント | 国立国会図書館—National Diet Library \(ndl.go.jp\)](#)

を参考にしてください

新NACSIS-CAT/ILL

印刷体に対応したシステムはOCLCのCBS MARC21準拠だが当面はCATP形式で運用

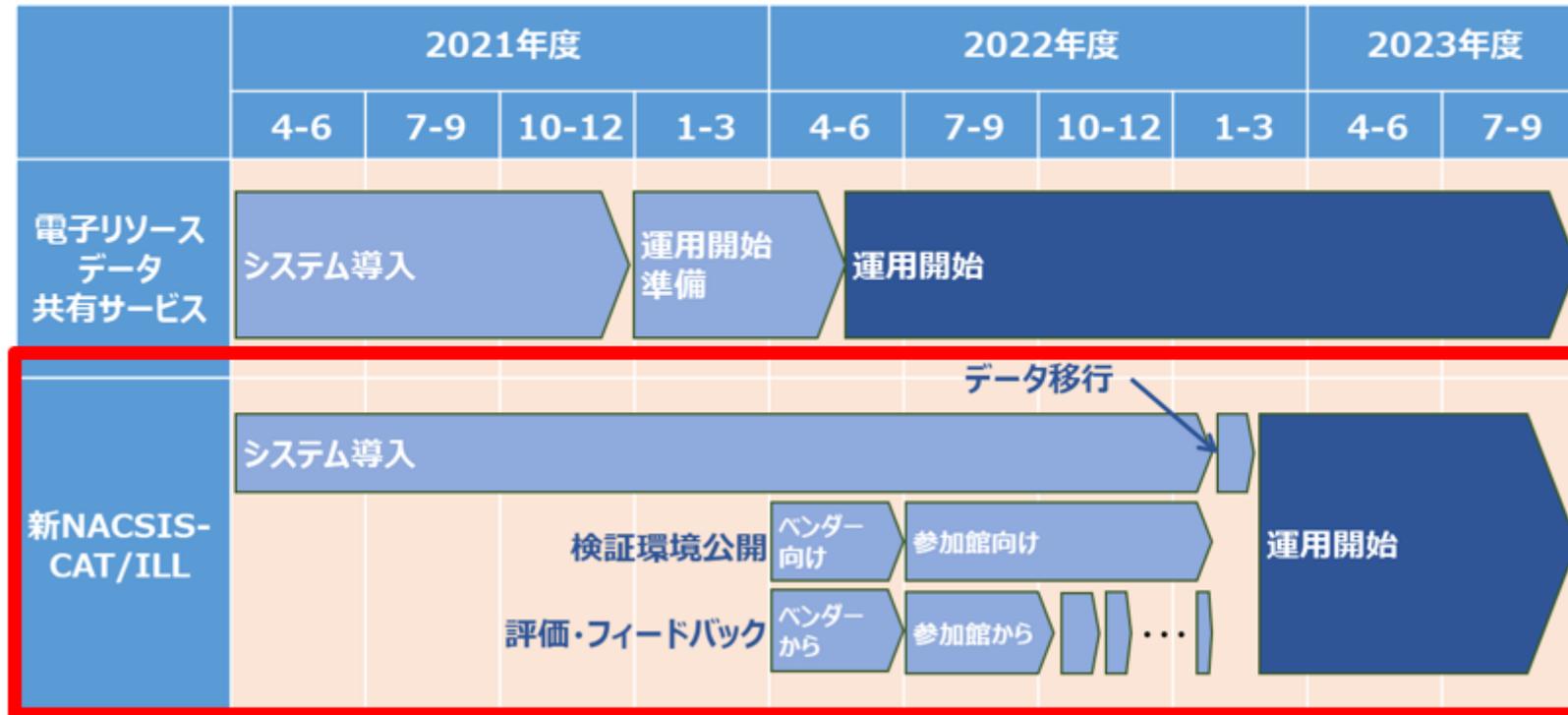


<https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw>

新NACSIS-CAT/ILL移行

新NACSIS-CAT/ILL移行（スケジュール）

NII



- 今回はCATP形式の中でのNCR2018適用
- 研修はNII研修担当とも協力して検討

NCR2018適用決定の流れ

メタデータ流通の高度化検討班（目録チーム）で適用の検討案



パブリックコメントなどで意見集約



これから委員会で決定（2022.7）



NIIで技術的検討

決定が必要な項目

- NCR適用細則案
- 洋書への適用検討←イマココ
- コーディングマニュアルの改訂案

NCR2018適用はいつ？

新NACISIS-CAT/ILL切り替え時に合わせたかったものの
2024年度当初になりそうです

それまでに必要なこと

- コーディングマニュアル改訂作業
- NCR2018の研修

「在り方（2019）」が示す「進むべき方向性」

(4) メタデータの高度化

他機関（NDL、出版社等）と連携し、RDA（Resource Description and Access）及び日本目録規則 2018 年版への対応のほか、BIBFRAME 等の新たな国際標準への対応について検討を行う。

(5) 学術情報資源の確保

印刷体とともに、幅広く電子情報資源（大学等のデジタルアーカイブや過去資料の電子化を含む）を確保するとともに、統合的発見環境を通じたアクセス及び資源共有を推進する方策を検討する。

「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について（案）」の検討と策定から抜粋

- これらを具現化させるためには、図書館をめぐるさまざまなシステムやサービスを設計する必要があることに加え、その中で提供されるメタデータがシステムやサービス、利用者にとって適切かつ望ましいものであることが求められる
- とくに（4）（5）では、メタデータが主役ともいうべき位置づけ

「物理的(Physical)な資料」のメタデータ

- 2023年度に、「**日本目録規則2018年版**」(NCR2018)の適用を開始することにより、相互運用性を高め、より豊かで、図書館職員のみならず、**利用者(エンドユーザー)**にわかりやすい目録を構築することを目標とし、提言を行っている
- 典拠コントロールの拡大やリンクトデータを踏まえた外部典拠データとの連携などについても検討

「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について(案)」の検討と策定から抜粋

新CAT/ILLに 取り込まれた データ

PREBOOK

<BC14048320> CRTDT:20220418 CRTFA:[FA027973](#) RNWDT:20220418 RNWFA:[FA027973](#)

GMD: SMD: YEAR:2022 CNTRY:us TTLL:eng TXTL:eng ORGL:

ISSN: NBN: LCCN:2021943374 NDLCN:

REPRO: GPON: OTHN:

VOL: ISBN: 9781598537154 PRICE: XISBN: 9781598537161

TR: The sun also rises : the library of America corrected text / Ernest Hemingway, Robert W Trogon

PUB: New York : Library of America , 2022

PHYS: 368 pages ; 21 cm

NOTE: Content Type: text (rdacontent), Media Type: unmediated (rdamedia), Carrier Type: volume (rdacarrier)

新CAT/ILLに 取り込まれた データ (続き)

NOTE: Content Type: text (rdacontent), Media Type: unmediated (rdamedia), Carrier Type: volume (rdacarrier)

NOTE: Summary: "This paperback edition of Hemingway's second novel reprints the corrected text from the Library of America omnibus Hemingway: The Sun Also Rises & Other Writings 1918-1926. In an appendix it gathers writings related to The Sun Also Rises-a short selection of journalism and letters"-- Provided by publisher

AL: * Hemingway, Ernest, 1899-1961 < > author

AL: Trogdon, Robert W. < > editor

CLS: LCC : PS3515.E37

NCR2018適用に向けての課題をユーザーグループで検討

- 著作の範囲をどこまでにするか。
- NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化を進めつつ、著作データを作成できるか。
- 洋書にNCR2018を適用して目録業務ができるか。
- 新規にデータ作成するときに、どの程度NCR2018に合わせるべきか。

洋書適用の問題から
始めます

NCR2018 の洋書への適用についてのご意見

| | |
|---------|-----|
| 望ましい | 58% |
| 望ましくない | 17% |
| どちらでもよい | 13% |
| その他 | 13% |

NCR2018適用細則案のパブリックコメント（2022.2～3）より

なぜ洋書にもNCR2018適用か

- RDAの習熟が、機関によっては困難
- RDA Toolkitを、機関によっては契約するのが困難
- CAT2020以降、さまざまな目録規則によるデータを許容する方針のため、RDAによる目録作成を希望する機関はRDAによる業務を選択可能

RDAを取り入れなくてよいのか？

- RDAは2010年のオリジナル版Toolkitから、2020年に改訂された公式版Toolkitへ
- 対応する概念モデルもFRBRグループから、IFLA LRM(Library Reference Model)へ
- オリジナル版はFRBRに合わせた構成だったが、内容は英米目録規則AACR2を引き継いでいるところも多かった。公式版は内容を一新。

適用による変更（案）

- CATPの形式の変更や新規項目の追加は今回は行わない。
- 新規項目は注記に入れる。

注記

表現種別：テキスト

機器種別：機器不用

キャリア種別：冊子

JP MARCデータ

| | | |
|-------|----------|--------------------------------|
| 24500 | 6 880-01 | a つまみ虎の巻： b 鎌倉おおはま / c 大濱幸恵 著 |
| 264 1 | 6 880-02 | a 東京： b KADOKAWA, c 2022.3 |
| 300 | a 141p : | c 24cm |
| 336 | a テキスト | 2 ncrcontent |
| 337 | a 機器不用 | 2 ncrmedia |
| 338 | a 冊子 | 2 nrcarrier |

著作の取り扱い（案）

受け入れる著作のデータ

- NDL + TRCが作成する著作データ
- 海外書誌作成機関が作成する著作データ

作成する著作のデータ

- 日本語、中国語の古典籍、その他言語の無著者名古典作品
- 聖典
- 音楽作品

著作の統一書名典拠に創作者を入れることができます

コーディングマニュアルの改訂の検討

- 今年度は図書から始める予定
- 2023年度、逐次刊行物に着手
- 2024年度当初からNCR2018の適用（予定）

CMは基本、洋書のほうが言及が多いのでそちらを採用し、それに和の基準や、NCR2018の該当項目を足すかたちで試案を作成しています

ユーザーグループでの検討

これから委員会によるユーザーグループの場ができています

<https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw/usergroup>

#

#ncr2018の洋書適用について（試行運用）へようこそ！

これはチャンネル「#ncr2018の洋書適用について（試行運用）」の始まりです。NCR2018を洋書の目録作成にも適用するか、検討するグループです。

2022年10月28日



東京海洋大学) 木下 2022/10/28

図書館総合展のワークショップ、皆様のご参加をお待ちしております。

NCR2018を洋書の目録作業へ適用するに当たっての問題点は？ 著作についてどう取り扱っていく？ 講演を聞いて「あれ？」と思ったことや「こうしたらいいんじゃないかな！」と思ったアイデアを意見交換してみませんか。

<https://www.libraryfair.jp/forum/2022/383> (編集済)

「みんなで考えよう、これからの学術情報システムで
実現を目指すこと」～これからのメタデータの在り方
とそれを支えるコミュニティ～



3

ユーザーグループでの検討

NCR2018の洋書への適用だけでなく、

- 著作の取り扱い範囲
- 関連指示子の取り扱い



将来、私たちはどんなデータ形式を選択したいか

MARCなのか、LODなのか…

そのような検討もできればと思っています

話し合って、納得の
いくつかたちで

ご清聴ありがとうございました